

アフリカの発展を目指して ～ J I C A 研修生が中部の物流を視察(報告)～

中部地方整備局は平成28年11月16日～17日、J I C A (独立行政法人国際協力機構)の「港湾物流効率化」研修で来日しているアフリカ地域からの研修生(10カ国14名)を受け入れ、三河港神野ふ頭、ボルボ・カー・ジャパン(株)、中部国際空港(株)及び衣浦臨海鉄道(株)の視察を行いました。

1. 概要

中部地方整備局は、J I C A (独立行政法人国際協力機構)が実施している、平成28年度「港湾物流効率化」研修の一環で来日しているアフリカ地域の方々を迎え、11月16日は完成自動車輸入台数・輸入額日本一の三河港における物流の視察として、三河港神野ふ頭及びボルボ・カー・ジャパンの豊橋VDC(※)視察、翌17日には臨海部の産業を支える海上輸送と航空輸送の連携(sea&air)として中部国際空港(株)を視察、また、海上輸送と鉄道輸送の連携(sea&rail)として衣浦臨海鉄道(株)を視察しました。



【中部国際空港貨物地区を視察】

※VDC (Vehicle Distribution Center) : 新車整備センター、日本に到着した車を整備し、顧客の納車日に合わせて全国の正規ディーラーに出荷します。

2. 実施内容等

実施日 : 平成28年11月16日(水)～17日(木)

場所 : 三河港神野ふ頭、ボルボ・カー・ジャパン(株)、中部国際空港(株)、衣浦臨海鉄道(株)

行程 : 平成28年11月16日(水) 13:30～14:20 三河港の概要説明
14:20～15:00 神野ふ頭視察
15:00～16:00 ボルボ・カー・ジャパン(株)視察
平成28年11月17日(木) 11:00～12:00 中部国際空港(株)視察
13:00～14:30 衣浦臨海鉄道(株)視察

受講者 : 14名(以下のアフリカ地域の10カ国より来日)
ベナン共和国、ブルンジ共和国、コートジボワール共和国、コンゴ民主共和国、
ガーナ共和国、マダガスカル共和国、ナミビア共和国、セネガル共和国、
南アフリカ共和国、タンザニア連合共和国

3. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

4. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、豊橋市政記者会、港湾新聞
港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

5. 問合せ先

中部地方整備局 港湾空港部

港湾物流企画室長 赤石(あかいし)、課長補佐 澤田(さわだ)

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

□研修の様子(詳細)

「港湾物流効率化」研修においては、港湾における物流効率化の推進のための方策などを講義や視察を通じて把握することを目的の一つとしており、11月18日以降は研修で学んだことを基に自国への適用可能性の検討を行います。

1. 研修の参加者と行程

- (1) 参加者 : アフリカ地域より14名の研修生が参加
(ベナン共和国、ブルンジ共和国、コートジボワール共和国、コンゴ民主共和国、ガーナ共和国、マダガスカル共和国、ナミビア共和国、セネガル共和国、南アフリカ共和国、タンザニア連合共和国)
- (2) 行程(概略) : 11月16日(水) 午後 三河港湾事務所にて三河港の概要把握
三河港神野ふ頭 視察(カメリア)
ボルボ・カー・ジャパン(株)豊橋VDC視察
- 11月17日(木) 午前中 中部国際空港(株) 視察
午後 衣浦臨海鉄道(株) 視察



【三河港の概要説明】



【三河港神野ふ頭を視察】



【中部国際空港(株) : 航空機部品搬送用特殊コンテナ積出状況】



【衣浦臨海鉄道(株)の視察】

2. 視察の様子

(視察後の感想)

視察後に印象深かった内容について、以下の感想を述べられました。

「三河港は効率的に計画・整備され利用されている。自動車特区としての経済効果も実感した。」「580haある中部国際空港が埋立で造成されており整備期間が約5年ということに驚いた。また、空港島内に岸壁を有しており海上と航空輸送と連携していることも驚いた。」
「衣浦臨海鉄道は公共ではなく民間で運営されており、スケジュールの正確さ、貨物へのダメージがほぼ無いことについて興味深い。」